連載：現代管情報シリーズ

中国で新しく誕生した桂光ブランド
NGG-300B
(Part-2)

都来往人

はじめに

先月号では中国で誕生した新ブランド：「桂光（Guiguang）」製真空管の第一弾として，2A3系を2種類ご紹介しました．

既に終結した国営工場と同じ名前を名乗る現在の桂光は，かつての国営工場が復活したのではなく，経営不振で惜しくも2000年に終結した柳州（Liuzhou）で働いていた技術者が，現地に温存していた機材等を広東省佛山市南海区の工業地帯に移設して2007年に起業した「佛山市南海桂光電子管廠（Foshan Nanhai Guiguang Electron Tube Factory）が立ち上げたブランドです．

現在，市場に出回っている桂光ブランド球の工場直送品には，かつての国営工場時代の工場記号である，原子核の周りを回る電子の軌道をイメージしたブランド・マークの下に“NGG”の三文字が加えられています．

中国ではかつての国営桂光電子管廠を「老桂光（=Old Guiguang）」と呼び，現行の桂光ブランドを「新桂光」と呼んでいます．

つまり，“NGG”は“New Guiguang”の略語で，上記の会社設立の経緯を意味しています．

会社名とブランド名をかつての国営工場と同じにしたのは，もともとこの地に存在していた老桂光の海外での知名度が高かったためかと思われます．

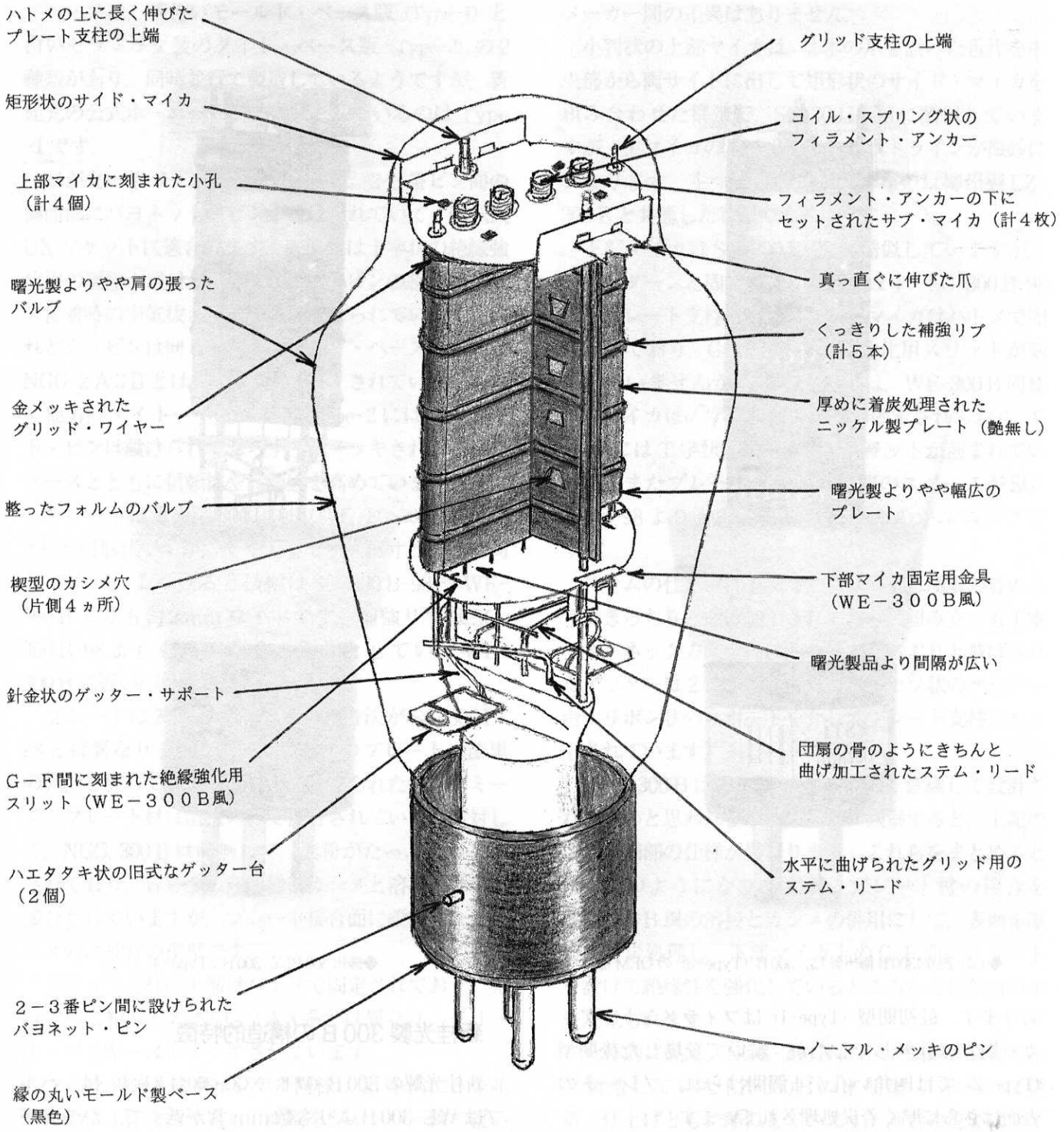
2007年に起業した同社は，多額の資金を投じて設備を整え，従業員を集めて，2年後の2009年には本格的な製造が始まり，以来，新桂光の製品は欧米を中心に少しずつ出回るようになったようです．公式ホームページ（http://www.ggtube.net/）を見ると，現在製造しているのは2A3系が2種類，300B系が2種類とKT88，101Dの計6種類です．

シリーズ第二弾となる今回は，300B系の基準モデルをご紹介したいと思います．観察の結果，同モデルはかつて1990年代半ばにGolden-Dragonブランドから発売された柳州（Liuzhou）製：GD-4300Bの復刻版と言えるような内容であることがわかりました．

曙光電子以外で開発された300Bについて

以前にもお話しましたが，現代管としての300Bは，中国の国営曙光電子管廠（=曙光電子の前身）で誕生したのが始まりです．同工場では英国資本の協力を得て1990年代初頭より300Bの開発を始め，1992年には英国：PM-Componentsが展開するGolden-DragonブランドからGD-300Bとして全世界に向けて発売され，これによって現代版300Bの礎が出来上がりました．当時，WE-300Bの最終モデル（1988年製）は品薄で価格も高騰していましたが，新たに登場した中国製300B（SG-300B）は安価だったため，かつては一部の限られたマニアの間だけで使われていた300Bが初心者層まで広く急速に普及するきっかけとなりました．それ以降，現在までに都合約30種類の様々なモデルが登場したことは2009年11月・12月号でご紹介したとおりです．

1992年に登場したGD-300Bは曙光電子製300B（SG-300B）の選別品ですが，ほどなくして同ブランドからはハイグレードな特注品のGD-300B Super/



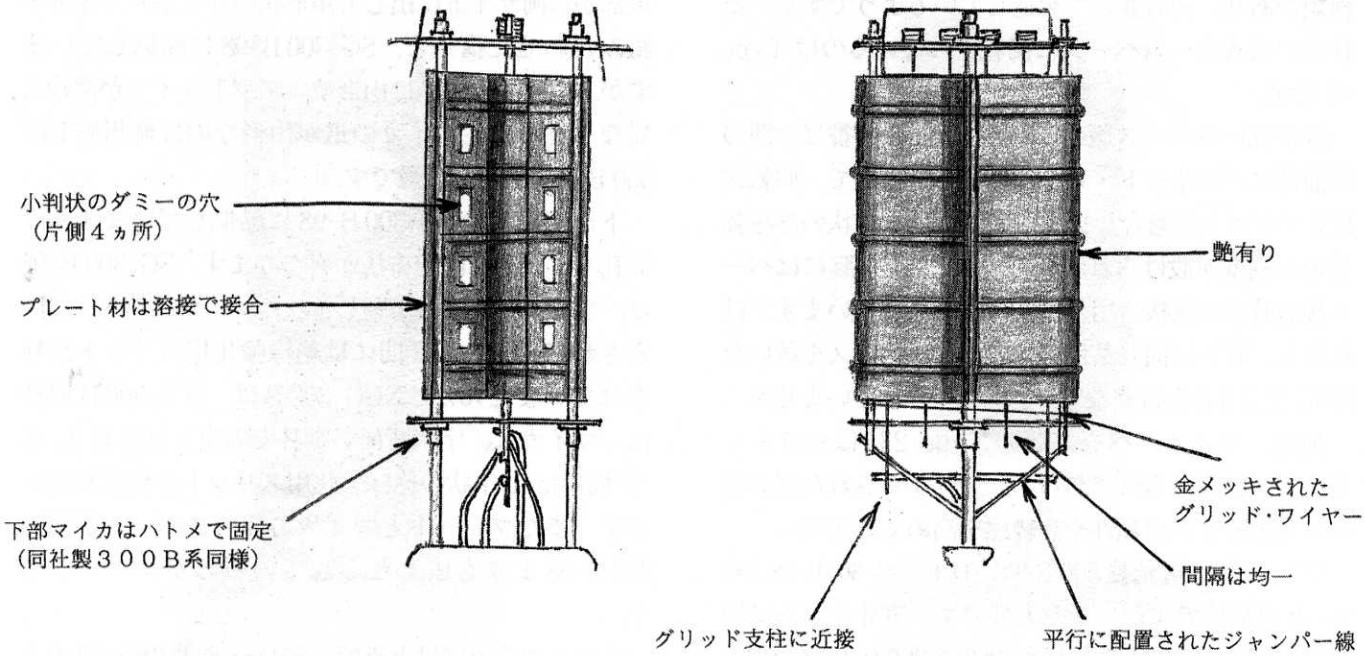
◆国営桂光電子管廠と思われる 300 B の構造的特徴

でチェンジしていったため，全容を把握するのは非常に困難です．特に Golden-Dragon ブランドは 1990 年代半ばまで複数の工場から OEM 供給を受けていたため，状況は複雑です．同ブランドから曙光，柳州，北京の製品が発売されたことはわかりましたが，それ以外にも上記のような出身地不明の 4-300 B があるため，各モデル毎に生産工場や製造時期を全て特定するまでには残念ながら至っていません．

手許にあるサンプルを何度も比較した結果，ゲッター台が旧式なハエタタキ状で，プレートの接合方法がカシメ併用型で，グリッド・ワイヤーが金メッキされ，マイカの爪が真っ直ぐに伸びている 300 B は，国営桂光電子管廠（Guiguang＝老桂光）の製品である可能性が非常に高いことや，かつ GD-4300 B としては最初期のモデルであることがわかりました．本シリーズでは同モデルを仮に“GG 4-300 B”と呼称したいと思います．

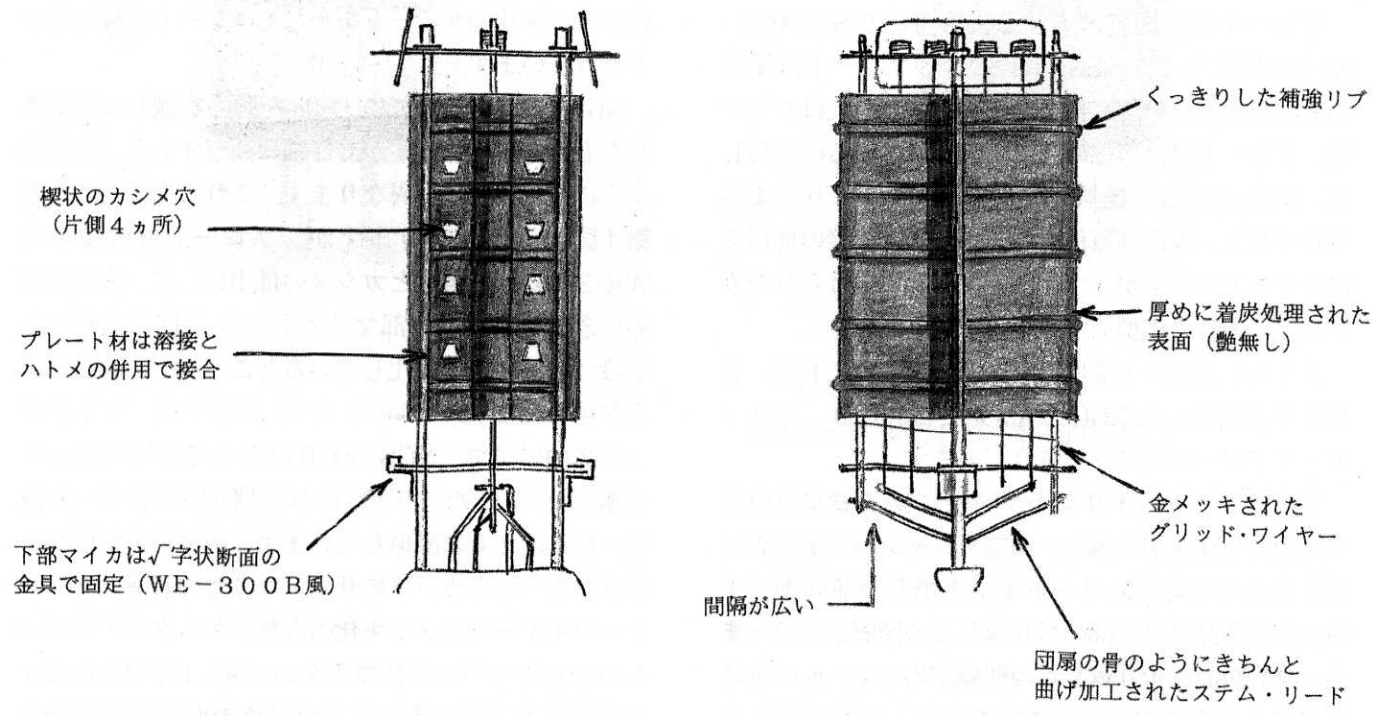
GG 4-300 B には細部の仕様の異なる都合２種類が

SG－300B－98



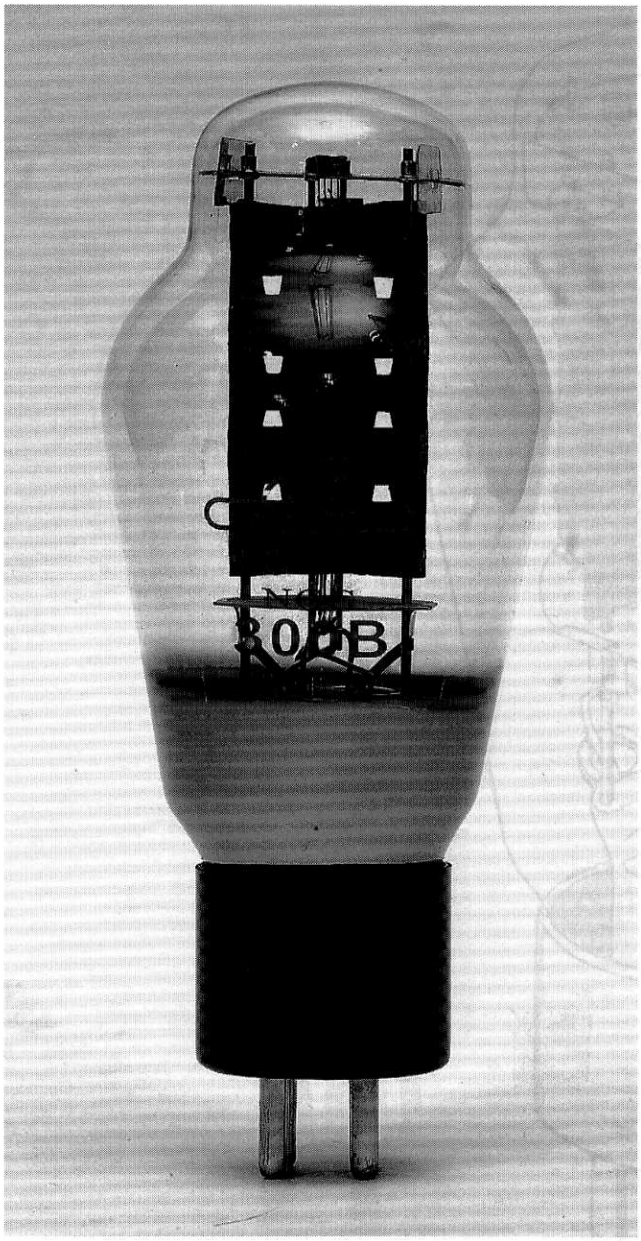
NGG－300B

〈第１図〉SG-300B-98とNGG-300Bの電極の比較

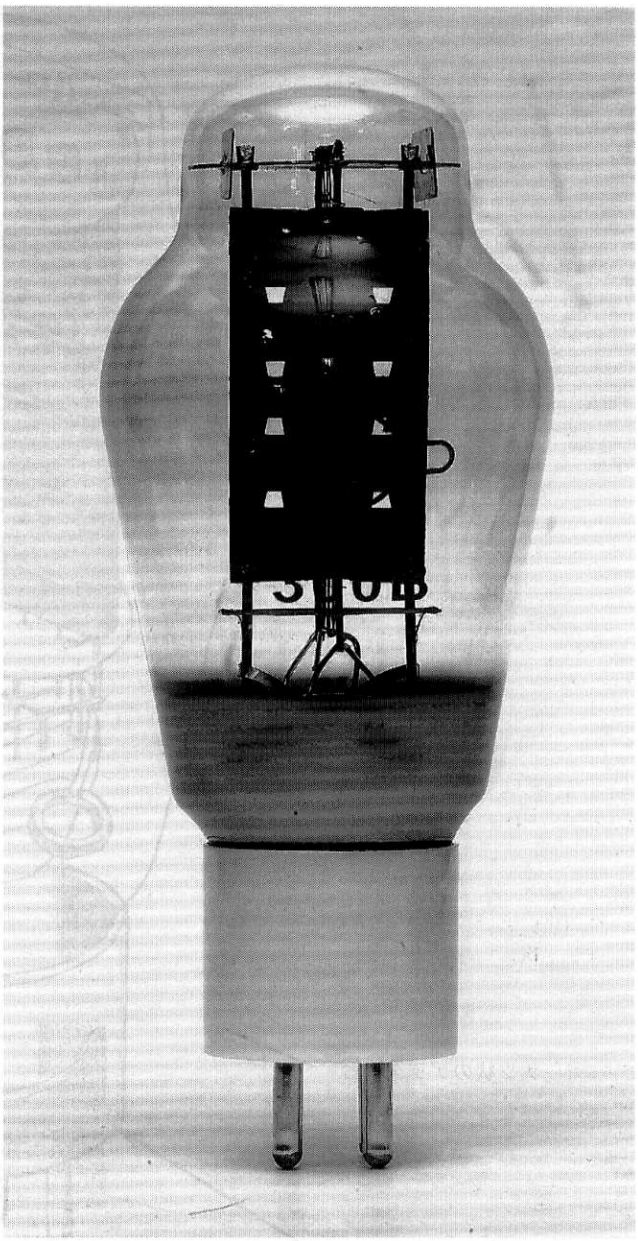


型は，構造的には柳州製4300Ｂ（Type-5）の復刻版と言えるような内容であることがわかりました．

新桂光の公式ホームページに掲載されているのは茶色いモールド・ベース版のType-1ですが，現在，国内で販売しているのはタイト・ベース版のType-2だけです．新桂光マークのオリジナル品は徳島の通販業者が昨年頃から販売しており，秋葉原はCCIブランドのOEM品が入手可能なことが確認できました．他方，モールド・ベース版のType-1はネット・オークションで取引されているようです（9月20日現在）．



◆新桂光（NGG）300B（Type-1）モールド・ベース版



◆新桂光（NGG）300B（Type-2）タイト・ベース版

V～7.5mA/Vとのことでしたので，NGG-300Bの他のスペック（Eg，Gm，Rp，Pout）がWE-300Bとは微妙に異なるのは許容範囲とみなしたいと思います．

ところで，今回入手したNGG-300Bの工場直送品4本の平均プレート電流は54mAで，比較的よく揃っていました．

なお，桂光製真空管の工場直送品のベースにはIpの測定結果が記入された検査票が添付されており，CCIブランド向けのOEM品のベースにはIpの測定結果を記入したラベルが貼られています．

試聴結果

構造的に見て，新桂光のNGG-300Bは柳州製のLZ-300B（Type-5）の復刻版と言えるような内容であることがわかりましたが，肝腎の音質が気になります．

そこで，自作の91型シングル・アンプ（球の構成はWE-310A＋WE-300B，整流管はUXとUSの切替式：通常はWE-274A/Bを使用という陣容，300BのIp＝60mAで動作）でテストすることにしました．

今回，比較試聴用に用意したのは，リファレンスとしてWE-300Bの1984年製を，現代管は曙光電子の300B-98の現行品（Type-3：モールド・ベース版）と柳州製のLZ-300B（Type-5：Old Timeブランド）ならびに新桂光のNGG-300Bの計4品種です．NGG-300Bはモールド・ベース版とタイト・ベース版のそれぞれを用意しました．LZ-300Bは末期製品を選んだのは，新桂光の製品に構造的に最も近いからです．な

形式	WE－300B	NGG－300B	SG－300B－98	備考
最大定格				
Epmax	450V	480V	480V	
Ipmax	100mA	100mA	100mA	
プレート損失	40W	40W	40W	
動作例				
Ep	300V	450V *	300V	* 350Vの誤りか？
Eg	−61V	−60V	−61V	
Ip	60mA	60mA	60mA	
Gm	5．5mA／V	5．3mA／V	5．5mA／V	
内部抵抗	700Ω	680Ω	700Ω	
負荷抵抗	2．4KΩ	2．4KΩ	2．4KΩ	
出力	6．6W	8．0W *	6．6W	* 6．6Wの誤りか？
注釈		公式HP掲載値		

〈第1表〉NGG-300Bの規格

さほど感じられません．音の芯は中域にありますが，SG-300B-98よりも重心が少し下がった感じです．響きや余韻は豊かで，なめらかで落ち着いており，表現力は上々です．WE-274A/Bとの組み合わせでは音がやや丸くなったように感じられ，相性は5R4WGBのほうが良好でした．

これに対して，新桂光製のNGG-300Bのモールド・ベース版（Type-1）は，基本的な音の傾向はLZ-300Bによく似ていますが，ちょっと明るめで，透明感がアップして高域の見通しがよくなり，リアル感もアップしています．ダイナミックかつワイド・レンジなその音は，SG-300B-98よりも力感が若干アップしており，総合的な評価としてはSG-300B-98よりもやや上位で，LZ-300Bにさらに磨きをかけたような印象です．

タイト・ベース版のType-2は，クリア感が若干増して，適度によく締まり，フォーカスもくっきりして，ステレオ感や奥行き感，リアル感がアップしています．モールド・ベース版よりもさらにレベル・アップした印象です．

まとめ

さて，新桂光から昨年頃に発表されたNGG-300Bは，構造的に見て，約10年前に製造中止となった柳州製LZ-300B（Type-5）の復刻品と言えるようなモデルであることがわかりましたが，グリッド・ワイヤーが金メッキされていて，ベースはモールド製（Type-1）とセラミック製（Type-2）の2種類あることなどが異なります．モールド・ベース版のType-1の基本的な音の傾向はLZ-300Bによく似ていますが，ちょっと明るめで，透明感がアップして高域の見通しがよくなり，リアル感もアップしています．力感は現在最も流通している曙光製の300B-98より若干アップしており，総合的な評価としては同モデルよりもやや上位の印象です．タイト・ベース版のType-2はクリア感が若干増して，さらにレベル・アップした印象です．

このように，NGG-300Bはかつての柳州製品を超える内容であることが確認できましたが，公表された規格には若干の疑問符がついてしまいます．公式ホームページ上の規格表ではプレートに450Vを印加してグリッド・バイアスを−60Vにセットした状態で8Wの出力が得られるケースが掲載されていますが，WE-300Bの規格表にはこれに該当するものが見当たらないため，誤植の可能性が非常に高くて，そのまま鵜呑みにはできません．新桂光製の300B系はオリジナルと同程度の特性になっているものと考えたほうがよさそうです．

ちなみに，MJ誌10月号で紹介された中国製のオーディオスペース：Refernce-5 300B（300Bパラレル PP，モノラル構成）に搭載された300Bは，構造的に見てNGG-300Bの可能性が非常に高いのですが，ベースが黒色のため，特注品かもしれません．

肝心の入手先ですが，9月20日現在，国内ではタイト・ベース版のType-2が販売されています．新桂光マークのオリジナル品は徳島の通販業者が昨年頃